

## ◆teku-teku2015★都市空間の構想力を歩き、語る／本郷企画（活動記録＋評価結果）◆

企 画■都市空間の構想力を歩き、語る ～本郷台地のまちを読み解く～

日 時■2015年12月20日（日）13:30～18:00

コース■本郷三丁目駅＜集合＞～本郷弓町周辺（弓町教会、クスノキ、瀬川邸）～菊坂界限（樋口一葉旧居、伊勢屋質店）～西片町住宅地（邸宅街、三角公園）～本郷森川町一帯（求道会館、鳳明館、六叉路、徳田秋声旧宅）～東京大学正門＋工学部 11 号館＜シンポジウム：都市空間の構想力をめぐって＞～東京大学本郷キャンパス（法文一号館、安田講堂、弥生門）～根津裏町＜意見交換＞

参加者■◎大竹 亮、安藤 文、井手幸人＊、小野田美都江＊、栗原 徹、鈴木丞治、高橋 謙、濱本智子＊、堀川雅代、森 正代、他2名＊（以上12名、敬称略、＊意見交換のみ参加、◎コーディネーター）

### 企画主旨■

「都市空間の構想力」とは、都市の成り立ち（自然地形や歴史の変遷）から計画意図を読みとり、空間構造を解析するというスリリングな試みで、そこからは見え隠れする重層的なまちの姿が立ち上がってきます。今回、季刊まちづくり誌の連載をもとに、学芸出版社より「図説・都市空間の構想力」（東京大学都市デザイン研究所編著）が出版され、記念イベント「都市空間の構想力を歩く、語る」が開催されます。後半の講演会（シンポジウム）では著者たちが、この本で提起したコンセプトが持つ可能性を、各自の調査研究、プランニング、デザイン実践に基づいて語り合います。都市に対するこの非常に興味深いアプローチをまちづくりにどのように活かすのか、私たちも独自に本郷の街を歩きつつ、シンポジウムに参加して一緒に考えてみましょう。



本郷菊坂界限の風景

### <参加者の意見・評価>

（注）評価は、A:非常に良い B:良い C:普通 D:良くない の4段階。コメントは、評価の理由、感じたこと、考えたことなど。

#### 1◆本郷の町全体について

評価:3.80 内訳:AABBB

評価A●文教地区という地味なイメージの街だが、台地と谷筋が交錯する自然地形、伝統建築や文士旧宅などの歴史性、超高級住宅地から庶民長屋・町家までの共存という東京内部市街地の典型的な構図が読み取れる。東京大学キャンパスも魅力的であり、じっくり歩くと奥行きのある文化性のある街。

評価A●本郷3丁目には毎日行っていますが、こんなエリアがあったとは、目からウロコ！！大変楽しませていただきました。皆に自慢しよ～っと。

評価B●本郷台地と谷筋との高低差によって宅地規模や雰囲気異なり、更に東京大学の建物群や緑の空間もあるなど、都心部にしては多様な要素が混在している。

評価B●文教地区であり閑静な住宅街であったのに、残念ながら大きな土地という不動産屋的価値に基づき、失われていく環境があるのを実感した。

評価B●まさに、歴史と地形が育んだ町並みであることを実感できた。

#### 2◆本郷弓町周辺（弓町教会、保存クスノキ、瀬川邸など）

評価:3.80 内訳:AAABC

評価A●本格建築の教会が街角に佇み、通りの中ほどにはクスノキの巨木が残されている。マンション化が行っているが、かつてのお屋敷町の風情をうまく保って上品な街並みになっているように感じる。

評価A●点であっても残そうとして大事にしてきものが存在していることに感心した。文化財ということではなく個人の力で残そうとしたところがすごいです。

評価B●昔のお屋敷の要素を上手く継承しつつ現代のニーズに応えている。

評価C●瀬川邸や保存樹など、かつてはお屋敷町だったことが伺われるが、マンション化してしまっているのが残念。

### 3◆菊坂界限（井戸のある路地／樋口一葉旧居、伊勢屋質店など）

評価:4. 60 内訳:AAAAB

評価A●菊坂上道と下道という性格が異なる2本の通りが併行している構成と、沿道の下町的な雰囲気、建物や路地が、趣きのある空間を生み出している。

評価A●生活感がすごく出ていて、井戸や路地の周りに集い小さなコミュニティで賑やかだったろうと思います。また、質屋さんが町の重鎮だったのだらうと思う雰囲気でした。少し陰でお金を借りる雰囲気かと思っておりましたが、割と表通りにデンと構えていて驚きでした。

評価A●高低差のある地形に小さな建物が並び、ヒューマンな空間を創っている。一葉旧居のある路地、豪壮な伊勢屋の商家建築など、歴史の重みがまちに深くにしみこんでいる。

評価B●樋口一葉ゆかりの地であり、しばし「たけくらべ」の世界に浸る。



本郷弓町の保存されたクスノキの巨木



菊坂通りに面する重厚な旧伊勢屋質店

### 4◆西片町住宅地（邸宅街、街角広場、三角公園など）

評価:3. 00 内訳:AABCC

評価A●建物は建て替わっているが、丘の上の邸宅街の雰囲気が今も保たれている。細い道が切通しのバス通りの上を陸橋で越えて森川町へと伸びているのは、かつての地形を思い起こさせる貴重な姿。

評価B●かつての邸宅はかなり雰囲気のあったらうと思われるが、今やマンションになってしまった。

評価C●急な坂を上ると高級な住宅地が現れる。交差点が街のスケールに比べて妙に広いのが不思議な感覚。

評価C●昔のお屋敷街のイメージが薄らいだ印象である。

### 5◆本郷森川町界限（求道会館、鳳明館、徳田秋声旧宅、六叉路など）

評価:3. 80 内訳:AABBB

評価A●東大正門の向かいにふさわしい界限。求道会館や鳳明館、徳田秋声旧宅などが残り、求道学舎もリノベーションで生まれ変わっている。謎の六叉路が本郷の街の奥深さを象徴する東大正門に対峙するのにふさわしい街。かつての高級下宿・本郷館が無くなってしまったのは、本当に残念だ。

評価B●求道会館や鳳明館などによって独特の景観が形成されているが、本郷館が建て替わってしまったのは残念。

評価B●求道会館は、ちょっと派手にすると幸福の科学になりそうな洋館風でした。鳳明館は、レトロ的でちょっと住んでみたい感じです。

評価B●様々な建物が群として独特の印象を街に与えている。



都心に残る超高級住宅地・西片町のまちかど



森川町に独特のファサードを見せる求道会館

## 6◆今回訪れた中で特に印象的だった場所

本郷弓町教会の姿★西洋風の伝統建築が街角に佇み、今も現役で街の雰囲気を作っている。

弓町のクスノキ★都心部ではなかなか見られない巨大なクスノキで、マンションに負けない存在感。

弓町のクスノキ★楠木の大きさに感動し、レストランがあるのもわかるなあと感じて、父に話すと、“それは、楠亭というレストランで国鉄マンがその木に惚れて退職して、一緒に有った洋館と共に買取りレストランを開いたという木だろう”と言われました。 ※街道をゆく(本郷界隈)に記述有：やはり大事にしているものは次の世代に引き継がれていくものだなと思いました。

本郷弓町周辺あたり★昔(江戸時代から?)のお屋敷街の面影が残ってるんだなあ…。それにしてもミスマッチ?無理しちゃって。

弓町から菊坂に下る道★かつてのお屋敷町の道の行き止まりが階段になって、下ると菊坂の庶民街に出る。

菊坂の井戸のある路地★細い路地を入ると井戸、階段と木造建物があり、タイムスリップした空間。

菊坂の伊勢屋質店★菊坂通りに面する重厚な外観、奥行きのある内部、奥に井戸のある路地などすばらしい。

菊坂の伊勢屋質屋★昭和50年代まで現役でありながら、昔の雰囲気を保っている様子が良い。

菊坂あたり★これは馴染みがありますよ。地元根津でもお馴染みの風景。和みます。

西片町から森川町への道★バス通りを陸橋で越えるところがダイナミックな地形を実感させる。

森川町の六叉路★昔のお屋敷の社に起因したその生い立ちが印象的であった。

森川町の六叉路★道路が少しずれて交差する三角形の広場は、象徴的な空間として本郷のヘソになっている。

森川町の求道学舎★今回は垣間見えただけだったが、リノベーションされてセンス良く再生されたようだ。

森川町の求道会館★うん、やっぱりアカデミックな、と言うか真理を求める人が集まるベースだったんだ。はて、今の東大は?

東京大学キャンパス★法文一号館のアーチの通路は、夜間のライトアップでとても幻想的な美しさだった。

## 7■本郷の町は今後どうなって欲しいと思うか。また、そのためにはどうすればいいか。

●本郷館が建替えられてしまったように、まとまった敷地は建物の更新によってマンション化することが想定される。街をよりよくするためには、これらの更新に際して何らかの条件付けをすべきであり、その前提として、地域住民がどのような街にしたいのかを明確にすることが必要。

●都市計画というものが完全に不動産屋に負けた状態を見た感じがしました。これでも頑張っている方ですが。現在、都市部では国も不動産屋の手先なのかと思うような有様で、まちづくりは理想論として位置づけられてしまったのかなと思いました。ビジョンを持ち折り合いをつける気概のある人はいなくなったのでしょうか? M社も提唱して計画しているようなことを言うが、地価を吊り上げるために無理をしているように見えるし。

●まち歩きには参加できなかったのですが、個人で何回か散歩をしていて感じたのは、東大の構内・建物が素晴らしいので、何かに利用できないものかと思います。

●芸術の町として谷中が芸大と切り離せないように、学問の街として本郷は東大と一体的な存在ではないか。高級学生下宿であった本郷館、修学旅行向けの和風木造旅館群、医学書の専門書店、学者や文士の旧宅など、そのような視点から街を解説していくのも、もう一つの都市空間の構想力(都市文化の構想力?)では。

●旧東京府東京市本郷区を本郷と考えるならば、地域が分断されているようにも感じるのも、もっと一体感のあるエリアになって欲しいです。また、新規住民の居場所が作りにくいのではないかと感じています。本郷のまちは、江戸の面影を残しつつ、暮らしやすい文教のまちであってほしいです。そのためには、地元商店街の活性化、町内会の解体と再構築など、旧態依然とした部分に新しい血を入れていかないと変わらないのではと感じています。まちの活性化の突破口として、地域内に大学が多数あるので、大学生の参加が実践されています。が、多くのみなさんは4年で去って行ってしまうので、お手伝い大学生の感がぬぐえません。地域に腰をすえた白山の「花みち図書館」のような場が、たくさんできるといいな、と思います。

●地元の人次第でしょうね。

## 8■都市空間の構想力シンポジウムに参加しての意見・感想(構想力の活用法など)

●「都市空間の構想力」は非常に興味深い内容であり、シンポジウムも面白かった。この構想力を活かすためには、個別敷地の短期的収益性という価値観から、地域全体の長期的収益性という価値観への転換が必要。そのためには有識者が更に深く理論構築を行い、行政や地域がそれをきちんと認識することが重要。

●地域振興、町おこし等には、すぐ新しい施策の導入が検討されますが、先ず都市空間の構想力を読み取るべきだと思います。



●本郷だけでなく全国の様々なまちが、都市空間の構想力によって成り立ち、今も機能していることが良く理解できました。また、それを活かしたまちづくりの事例も、非常に興味深いものでした。都市空間の構想力を読み取り、その土地の独特の力を上手く引き出して、ツボを押さえた開発をすることが必要だと思いました。

●若い学者さん達が様々な切り口で町並みを紐解いていく、一種のミステリー小説にも通じるスリリングな体験ができ、楽しかった。



銀杏の落葉が美しい東京大学本郷キャンパス正門



東大構内での都市空間の構想力シンポジウム

## 9 ■今回の企画についての感想など

●かつては本郷に通っていたが、当時はまち歩きをしておらず、改めて周辺を歩いてみると非常に面白い街であることがわかった。シンポジウムを挟んで、夜の部の懇親会のカニとお酒、最高でした。(K・T)

●流行っていた洋館が残りつつ、古い下見板張りの民家があり、周りはマンションにとってかわられている。でも誰かがその中で残そうとする意思のあるものが残っていることに感動します。どれだけその意思を持っている人がいるかによって町の風土がでる様にも思いますが。頑張ってほしいなあ。(A・A)

●忘年会とても楽しかったです。根津の雰囲気ピタッと合う店でした。店も店主も味がありました。福井のカニ、最高でした。正しい食べ方を学びました。他の魚、日本酒も美味しかったです。Mさん、手配ありがとうございました。(T・K)

●忘年会、カニづくしで最高でした！！お酒も美味でした。本郷界隈は意外に、何度も行ってみたいお酒の美味しいご飯処が見つかりません。さすがの忘年会でした。(O・M)

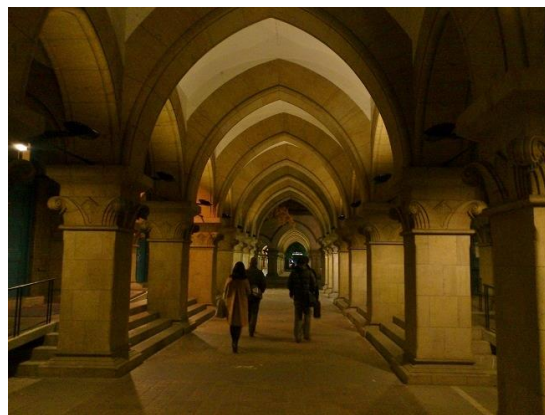
●いつもご案内ありがとうございます。評価シートがこんなに簡単になっているとは気づきませんでした。以前とても面倒だったので、それ以来すっかり劣等生で・・・これからは参加したらちゃんとしします。(M・M)

■コーディネイターより

●この「都市空間の構想力」の連載が季刊まちづくり誌で始まったのが8年前、ちょうど tekuteku の本「まち歩きガイド東京+」を企画していた時期です。その連載第1回「本郷台地」の内容に大いに触発され、当時も本郷界隈を歩きましたが、今回再び歩いてみて、その後も変わらない風景が多く、懐かしさを憶えました。まち歩き、シンポジウム、忘年会という盛りだくさんの企画でしたが、それぞれ非常に充実していましたね。この機会を下さった学芸出版社に感謝します。ありがとうございました。(O・R)



菊坂下(樋口一葉旧居付近)の路地奥の井戸



東京大学本郷キャンパス法文1号館の通路